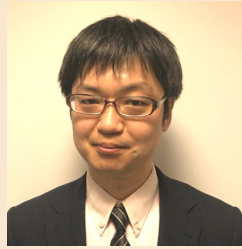


新理事委員ご紹介

PART3

幹事

Mizuho Bank, Ltd.
酒井 一宏



アメリカ生活も4年になりました。コロナ禍も収まりを見せて来た事で、1年前に比べて家族と出かける機会も増え、自分なりにヒューストンライフを満喫しています。今年は、大谷選手や地元アストロズの応援のためMinute Made Park には何度か足を運びました。機会があれば、フットボールやバスケットも観戦したいと思います。引き続き感染予防対策は欠かせませんが、せつかくのヒューストン生活を充実したものにできればと思っています。

2020年4月より務めている商工会幹事ですが、就任直後より全ての会議がオンライン運営となりました。幸い事務局や理事委員皆様のサポートのおかげで、滞りなく業務を進める事ができています。In person での会議の再開時期については、CDC のガイドラインに従いつつ、関係者皆様と協議の上、適切に判断していきたいと考えております。微力ながら精一杯頑張りますので、引き続き皆様からのご指導をよろしくお願い致します。

会計幹事

Deloitte & Touche LLP
沖 隆士



ヒューストンでの生活も3年目を迎え、テキサス州内のロード・トリップから戻ってくる「帰ってきたなあ」と安心感を覚えて、すっかりヒューストンが今の自分にとってのホームになっていると感じます。コロナや寒波、ハリケーンといった非常事態が多い中での近所付き合いや日本人コミュニティとの繋がりは大変心強く、私も微力ながら商工会の会計幹事という立場を通して日本人コミュニティに貢献していければと考えております。私は商工会において総会や常任委員会での予算・決算説明、および日常的な入出金管理の監督を行っており、各種イベントの開催見込みが不透明ではありますが、商工会の円滑な運営を資金繰りの面からサポートしていきます。

テニス、ソフトボール、ゴルフなどの屋外スポーツに加えて、最近ではジグソーパズルというインドアな趣味も始めました。無心にピースと向き合うことで心のデトックス効果があるようなないような。興味のある方は是非試してみてください。

会社紹介

日本経済新聞社/日経アメリカ社

正団体会員 花房 良祐 さん

1. 会社の業務内容等について簡単にご説明ください。

日本経済新聞社はヒューストン支局を10月に開設しました。1990年代にも支局はありましたが、2000年代初頭にいったん閉鎖。近年のテキサス経済の盛り上がりや注目度の高まりを受け、再開に踏み切りました。グループ会社の英紙フィナンシャル・タイムズとの共同支局となります。テキサス唯一の日本メディアの支局でもあり、日経新聞の海外の取材拠点は37か所となりました。

ヒューストンからはエネルギー情勢について発信していきますが、その他にもアメリカのモノ作りや航空宇宙産業、米国南部のマクロ経済についても読者に紹介したいと思います。テキサスなど「レッド・ステート」(共和党州)の動向も伝えていきます。

2. ヒューストン/テキサス州の印象についてお聞かせください。

アメリカ北東部に比べると、ヒューストンではテキサス州の旗があちこちに掲げられ、街中でスペイン語が飛び交い、大通りは片側4~5車線が当たり前。ニューヨークやワシントンDCとは違う文化圏に来たと実感します。スーパーでは格安の牛肉を見つけ、うれしくなりました。

野球観戦に行ったアストロズの本拠地「ミニッツメイド・スタジアム」では、センター後方に巨大なガソリン給油機のオブジェがあり、外野の広告にはシェブロンやオキシデンタル、フリーポートLNG、ジェニエールといっ



た石油・ガス会社の名前がずらり。野球場でも化石燃料の街であると感じました。

テキサスは「レッド・ステート」と言われていますが、ヒューストンは「ブルー」だというのも赴任が決まってから知りました。まだヒューストンの街の外に出かけていないので、テキサスの各地を訪れ、日本メディアの駐在記者が集中するニューヨークやワシントンDCからは見えないアメリカの南部の世相を読者に伝えていきたいです。

3. その他、個人的な関心事(趣味等)についてお聞かせください。

いまから約20年前、「グレイハウンド・バス」に乗ってアメリカを横断したことがあります。同時多発テロ「9・11」の直前で、中国はまだ「新興国」という位置づけ。アメリカ人は「冷戦後の世界の新秩序をどうすべきか」を議論しており、まだ心に余裕がある、おおらかな時代でした。

旅の経路はデラウェア、アトランタ、ルイジアナ、テキサス、ニューメキシコ、アリゾナ、ネバダ、カリフォルニア、ワシントンの各州で、1か月かけて訪問しました。当時は学生で、サイモン&ガーファングルの曲「アメリカ」の歌詞にある「walked off to look for America」という若者らしい気持ちで出発しました。

ただ、各地を見聞すればするほど、「アメリカって何だ?」という気持ちが強くなっていったのを思い出します。結局、1か月かけても「アメリカとは何か」という結論は出ませんでした。

今回のテキサスの駐在で、幼少期を含め、アメリカに住むのは4回目になります。これまで1980年代にニューヨーク州、2000年ごろにデラウェア、2018年ごろにワシントンDCに住んだことがあります。年代と州によってアメリカは違う顔を見せてくれました。2020年代のテキサスがどんな顔を見せてくれるのか楽しみです。